

1. ジョブコーチトレーナーによる「第1回ジョブコーチ養成研修」の準備

3月6日、本邦研修に参加した8名のジョブコーチトレーナーがJICAモンゴル事務所で開催された評価会に出席し、修了証を授与されました。その後、8名のトレーナーは、3月27日～30日（4日間）に実施された「第1回ジョブコーチ養成研修」の講義と演習の内容・進め方について協議のうえ準備を進め、35名のジョブコーチを養成しました。



JICAモンゴル事務所での修了証授与

2. ジョブコーチの活動現場視察



ジョブコーチの活動現場視察（韓国レストラン）

3月14日、大妻女子大学の副学長でDPUB2プロジェクトチームメンバーである小川浩先生がUB市を訪れた際に、ジョブコーチの活動視察をした時の様子をお伝えします。UB市の韓国レストランでは、精神障害のある22歳の男性が2022年11月から仕事を開始しています。ジョブコーチのオソルジャラムさんがオーナーと交渉し彼の雇用が決まりました。雇用後、オソルジャラムさんは彼の職場へ出向き、仕事を皿洗いとゴミ出しに限定する「職務の再構成」を実施しました。

その後、「システムティック・インストラクション」の理論を用いて皿洗いの方法を分かりやすく教え、早期に職場での自立へと導きました。また、洗剤の量が調整できるポンプの導入や、職場のルールを見えやすい位置に貼りだす等の環境調整も行いました。小川先生は、「オソルジャラムさんがジョブコーチの基本技術を生かし業務を進める事例を見られて感動しました」と感慨深そうに言いました。オソルジャラムさんは、「第1回ジョブコーチ養成研修」でも、トレーナーとして講義を行いました。



ジョブコーチトレーナーと小川浩先生

目次

1 ジョブコーチトレーナーによる「第1回ジョブコーチ養成研修」の準備

2 ジョブコーチの活動現場視察

3 DPUB2スタッフ ムンフトゥールさんの研修報告②：知的障害者を雇用している小牧ワイナリーの訪問

3. DPUB2スタッフ ムンフトゥールさんの研修報告②：
知的障害者を雇用している小牧ワイナリーの訪問

JICA課題別研修「障害者就労促進」の参加者たちは、AJU自立の家で福祉雇用を行う小牧ワイナリー（ぶどう栽培・ワイン醸造）を訪問しました。ぶどうの栽培時期ではありませんでしたが、小牧ワイナリーのスタッフは、ぶどう畑の掃除や手入れに追われていました。AJU自立の家は2003年からワイン事業に取り組み、2015年からはぶどうの栽培、収穫、ワイン販売に障害者を雇用しています。



小牧ワイナリーのスタッフによる畑の紹介

小牧ワイナリーで働くダウン症の男性が
自立生活している様子

小牧ワイナリーは、知的障害者の雇用を支援し、その雇用を維持しています。それは、ワイナリーが安定した収益を上げ、障害者の自立した生活を支援していることを意味します。

参加者たちは訪問を通して、モンゴルにも、障害のある人とない人がともに活動し、地域ブランド商品を生産できる可能性と機会がたくさんあることを学びました。ワイナリーが安定した経営と利益を得るためには、コミュニティのサポートが成功の鍵になります。訪問は、知的障害者雇用を考える良いきっかけになりました。



小牧ワイナリーでの記念写真

✉ dpub.jica@gmail.com

📍 The Ministry of Labor and Social Protection, 4th khoroov, Chingeltei district, United Nation's street-5, Ulaanbaatar 15160, Mongolia

📘 <https://www.facebook.com/jicadpub1and2>🌐 <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/030/index.html>